令和6年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【原山中】

① 今年度の課題と授業改善策

	学習上・指導上の課題		授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能の習得状況が二極化している。 <指導上の課題> それぞれの学力等に応じた個別最適な学びの場面を設定する必要がある。	⇒	個人での目標を明確にし、その目標達成に向けた、計画や方策を考える場面とそれを評価する場面を適切に設定する。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 定着した知識・技能や自分が興味・関心のある事柄を深めるなど主体的に探究していく力が不足している。 <指導上の課題> 知識・技能や自分が興味・関心のある事柄を深め、主体的に探究していく場面の設定や課題のさらなる提示が必要である。	⇒	年間指導計画（特に単元計画）の見直しを行い、つけたい力や目標とその目標達成のための手段を明確にするとともに、単元を貫く課題等を設定し、授業の探究化を図る。

② 全国学力・学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	国語・数学どちらの教科においても全国平均等に比べて、正答率が高く、無回答率が低い傾向にあった。標準偏差から見る正答数のばらつきが昨年に比べ減少していることから基礎的・基本的な知識・技能の習得に向けて個別最適な学びが進んでいる。
思考・判断・表現	国語・数学どちらの教科も、「知識・技能」の項目と比較して、正答率が低く、また無回答率が高くなる傾向にあった。ただし、全国平均の数値を大きく上回っている。また、短文式、記述式の回答率が全国平均を大きく上回っていることから、習得した知識を表現する力がついてきている。

③

	中間期報告		中間期見直し
	評価（※）	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	公開授業週間等を学校独自で設定し、授業改善を図り、探究的で個別最適な学びの実践に努めている。	変更なし
思考・判断・表現	B	教科ごとに指導計画の見直しを定期的に行い、更なる授業の探究化に努めている。	変更なし

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（概ね達成）C 6割未満（あと一歩）

④ さいたま市学習状況調査結果について（分析・考察）

知識・技能	どの教科においても、知識・技能の項目で市平均より正答率が高く、日々の学習の積み重ねがみられる。既習の内容を確認したり、繰り返し学習させたりして、さらなる定着を図っていく。また、知識の概念的な理解を大切にして、生徒が知識・技能を獲得していけるよう授業改善に努めていく。
思考・判断・表現	記述式の問題で、無解答率の割合が低くなったことは、自分の考えをもたせ、学習の足跡を残す指導を積み重ねた成果であると考える。しかし、教科によって正答率の偏りが見られるため、教科横断的な視点を重点に置き、指導を継続していく。今後も考え方を言葉で説明する活動に重き、思考力・判断力・表現力を高めていきたい。

⑤ 授業改善策の達成状況

	評価（※）	
知識・技能	B	公開授業週間等を学校独自で設定し、授業改善を図り、探究的で個別最適な学びの実践したことにより、教員間の授業改善の視点や研究協議が活発に行われ、教材への理解を深めることができた。
思考・判断・表現	B	教科ごとに指導計画の見直しを定期的に行い、更なる授業の探究化に努めた結果、教科横断的な視点から学習内容の見直しが行われ、し学力検査等でも昨年度に比べ高い数値を出すことができた。

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（概ね達成）C 6割未満（あと一歩）

⑥ 次年度への課題と授業改善策

知識・技能	全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。しかし、個人差が大きいことから個別に必要な支援を講じていく必要がある。学習内容に応じて個別最適化を進めていく。また、次年度の改善策としては、概念の必要性や意味の理解を深めるために、教科横断的に学習内容を系統化していくことを重点的に取り組んでいく。
思考・判断・表現	来年度は、教科横断的な視点からの授業改善に取り組み、生徒が思考する場面に重点を置いた教育活動を展開していく。そのために、学校で統一した理解を図り、生徒の思考判断表現力向上に努めていく。